

天台佛青連



発行元 / 天台仏教青年連盟
 編集 / 布教広報委員会
 発行所 / 〒289-0108 千葉県成田市高岡163 眞城院内
 印刷所 / 〒960-2101 福島県福島市さくら三丁目2-7 福島カラー印刷株式会社
 郵便振替 / 天台仏教青年連盟 02250-5-6765

題字 / 第257世天台座主
 森川 宏映 祝下

令和3年
 2月28日
 発行

index

代表 挨拶	1
天台宗宗務総長 御挨拶	2
延暦寺執行 御挨拶	2
インフォメーション	3
《特集》	
新型コロナウイルス早期終息並びに 罹災者安穩回復祈願木札巡礼法要	4
天台仏教青年連盟50周年記念シリーズ③	
創立50周年記念事業	
浄土院拝殿燈籠修復事業報告	5
協賛金協力者御芳名	6~7
常任委員会委員長報告	8

謹告

本号ページ減面のお詫び

毎年発行しております「天台佛青連」ですが、新型コロナウイルス感染予防に伴う取材自粛のため、ページ数を減面いたしました。発行を心待ちにしておりました皆様方には大変ご迷惑をおかけ致します。心よりお詫び申し上げます。

公式ホームページ

(新HP)<https://www.tyba.com/>
 (旧HP)<https://www.t-y-b-a.com/>

天台仏教青年連盟

天台仏教青年連盟ホームページ リニューアルのお知らせ

この度、連盟のホームページをリニューアルいたしました。これからも連盟の活動内容などをホームページにて更新してまいりますのでどうぞご活用ください。また、SNS (Facebook、Instagram) での情報発信も引き続き行ってまいりますので、併せてご活用ください。



天台仏教青年連盟公式Facebookでは連盟の活動をより多くの方に知っていただけるようにリアルタイムに分かりやすくお伝えしています。皆さまからのフォロー、閲覧どうぞよろしくお願い致します!!



天台仏教青年連盟公式Instagramへのフォロー、閲覧もどうぞよろしくお願い致します!!

情報通信委員会

「共成」

自覚を持ち共に成す

天台仏教青年連盟代表

松村 宗宣



天台仏教青年連盟の会報誌発行にあたりご挨拶申し上げます。平素は天台仏教青年連盟に對しまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。先ず、令和二年七月豪雨災害また全国各地で災害に見舞われ被災されました方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。被害

に遭われた方に安寧を取り戻していただけますよう、青年会では今後も支援活動を継続して参ります。さて、平成三十一年四月に代表に就任させていただき二年が経とうとしております。昨年掲げましたテーマ「祖師の灯を守り自ら覚る」を胸に令和二年を新たな気持ちで進めていこうとした矢先、人類を脅かす感染症のパンデミック(世界的大流行)が発生し生活が一変しました。宗内行事、各種イベントなどで人が大勢で集まる事が出来なくなりました。青年連盟でも『第十九回沖繩戦争殉難者慰霊法要』『仏法興隆花まつり千僧法要』『東日本大震災慰霊復興祈願法要』を中止とし、会員が各寺院でそれぞれに祈りを捧げました。昨年五月の代議員会も書面決議とするなど、種々の行事で感染リスクを考慮して中止、延期と決定致しました。

また、本来であれば昨年総本山延暦寺様で執り行う予定でした『天台仏教青年連盟創立五十周年記念結集』は、本年十一月十日・十一日へと延期致しました。この様な中で我々青年僧は、新型コロナウイルスの早期終息罹患者安穩回復祈願木札巡礼法要を發願し、全国三十七カ寺をリレーし、木札を前に法華経を誦誦し、疫病鎮靜、人心安寧、災害からの復興復旧を祈願致しました。法要は密集を避けるために一人で勤めていただき、「今私達青年僧にできる事は、願ひ祈る事」を、各教区の皆様と共に勤めさせていただきました。生活が一変した今、宗教者などの様な形で必要とされるのか。宗祖伝教大師のご誓願「忘己利他」、「能く行い能く言う」を今一度青年僧なりに感じ、「自覚」を持ち共に「共成」を広め祖師の叡智を伝え、青年僧全体の「核」となる価値観を共有し、思いを

一つに今一度「祖師の灯を守り自ら覚る」に立ち返り、全員でこの価値観を共有するための取り組み、変化する社会の中でも存在感のある天台仏教青年連盟として持続的に発展し、常に前へと、百年先までも繁榮していきます。このコロナ禍で忘れかけていた大切な事に気づかされまして。日常に当たり前は無いと言う事です。あの東日本大震災から今年で十年の歳月が経ちました。言葉では解ったつもりでしたが、いま一度、全てのものは「有り難い」と言う感謝の気持ちに立ち返らなければなりません。その上で自己を見つめ心を整え他者に寄り添い、自身の置かれた場所で謙虚に出来る限りのことを精一杯成し、天台仏教青年連盟はこれからも、一隅を照らして参ります。

また、本来であれば昨年総本山延暦寺様で執り行う予定でした『天台仏教青年連盟創立五十周年記念結集』は、本年十一月十日・十一日へと延期致しました。この様な中で我々青年僧は、新型コロナウイルスの早期終息罹患者安穩回復祈願木札巡礼法要を發願し、全国三十七カ寺をリレーし、木札を前に法華経を誦誦し、疫病鎮靜、人心安寧、災害からの復興復旧を祈願致しました。法要は密集を避けるために一人で勤めていただき、「今私達青年僧にできる事は、願ひ祈る事」を、各教区の皆様と共に勤めさせていただきました。生活が一変した今、宗教者などの様な形で必要とされるのか。宗祖伝教大師のご誓願「忘己利他」、「能く行い能く言う」を今一度青年僧なりに感じ、「自覚」を持ち共に「共成」を広め祖師の叡智を伝え、青年僧全体の「核」となる価値観を共有し、思いを

一つに今一度「祖師の灯を守り自ら覚る」に立ち返り、全員でこの価値観を共有するための取り組み、変化する社会の中でも存在感のある天台仏教青年連盟として持続的に発展し、常に前へと、百年先までも繁榮していきます。このコロナ禍で忘れかけていた大切な事に気づかされまして。日常に当たり前は無いと言う事です。あの東日本大震災から今年で十年の歳月が経ちました。言葉では解ったつもりでしたが、いま一度、全てのものは「有り難い」と言う感謝の気持ちに立ち返らなければなりません。その上で自己を見つめ心を整え他者に寄り添い、自身の置かれた場所で謙虚に出来る限りのことを精一杯成し、天台仏教青年連盟はこれからも、一隅を照らして参ります。



御挨拶

天台宗宗務総長
阿部 昌宏

新年あけましておめでとうございませう。天台仏教青年連盟会員の皆さま方におかれましては二〇二一年の新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。また平素より宗門諸行事へのご協力はもとより、多方面に亘るご活躍に對しまして深謝申し上げます。

昨年十一月十七日に天台座主猥下より宗務総長を拜命いたしました。不借身命で宗務に取り組む所存でございます。私は平成十八年に宗議会議員に初当選以来、宗政に携わらせていただき、阿内局・木ノ下内局・杜多内局初期の約八年間参務として宗門行政の一端を担わせていただく機会に恵まれました。これまでの執務経験を活かし、宗祖伝教大師の御教えを基に「和合の宗門発展」を目指したいと考えています。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により宗門諸行事は余儀なく中止や延期となり、宗徒及び檀信徒の皆さまにご心配をおかけしています。同様に仏青連盟も、創立五十周年の節目とし

て企画した「比叡山中央結集」は今年へと延期されました。

新しい生活様式やニューノーマルと呼ばれる新たな社会環境への対応が求められています。目に見えないウイルスへの不安、そして感染への有無からの差別や偏見など、社会に新たな分断線が生み出されております。科学・医学技術の力だけでは人びとの心までは解決できません。閉ざされた人心の闇を照らす神仏の力をおいて他にありません。我々天台宗徒は、お祖師方の教えに基づき、闇を照らす仏の光明を掲げて、社会不安を和らげる行動が求められています。

本年六月には、宗祖伝教大師一千二百年大遠忌御祥当を迎えます。大遠忌を機縁に、平和と安寧を享受できる社会を願われた宗祖伝教大師の御誓願を大いに敷衍すべく、仏青会員と共々に努めてまいりたいと存じます。

令和三年、創立五十周年記念中央結集が無魔円成され、仏青連盟の更なる発展と活躍をご祈念申し上げます。



御挨拶

延暦寺執行
水尾 寂芳

令和三年、いよいよ大遠忌の年を迎えました。五十年に一度、一期一会の遇いがたい機縁に、それぞれの年齢、立場で臨むについて、青年会のみなさんも熱い想いを抱いておられることと思います。

しかしながら昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大によって、日常生活に思いも寄らない大きな変化を余儀なくされ、何事も従来の計画通りに、行うことが困難となりました。その中での対応は、安心して行えるようになるまでとにかく自粛して待つ、或いはできる範囲で規模を縮小してでも行う、この両方の考え方に揺れています。皆さんもそれぞれの立場でその判断を迫られるのではないでしょう

うか。自粛して待つとしても何もしないで無為に過ごすわけにはいきません。反対に、とにかくやっつけたいというものでもありません。差し迫って現下の想いを綴ってしまいました。この文章をご覧になる二月下旬頃の状況さえ全く想像がつかない不安があります。

改めまして、日頃からの総本山延暦寺

に対する天台仏教青年連盟会員の皆さまのご芳情とお力添えに感謝申し上げます。青年僧としての皆さまの行動力をもも大変心強く感じております。

特に昨年は大遠忌を記念して祖廟浄土院拝殿の龕燈籠を修復頂きましたこと、誠に大遠忌に相応しい事業と感謝申し上げます。

令和三年はまだ見通せませんが、状況の許す中でできることを、或いはこの状況であるからこそなすべきことを是非、力を合わせて共に努めて行きます。比叡山大講堂における各教区の報恩法要、縁故教宗派の報恩法要、不滅の法燈の全国行脚、そして仏教青年会では本山に結集して山上諸堂での法華経読誦と報恩法要。それぞれ二年間の計画が一年の期間に集約されています。これらがそれぞれ仏天と宗祖大師のご加護を被り、殊に仏青の皆さまの力が存分に発揮されることを心から祈念申し上げます。誠に簡単粗辞ですがご挨拶と致します。

新型コロナウイルス早期終息並びに 罹災者安穩回復祈願木札巡礼法要



二〇二〇年に入り世界的流行となった新型コロナウイルスの影響により、各地で不安定な日々を過ごしている方々の為に、我々宗教者がまず何を成すべき事を考えたところ「願い祈ること」でした。

五月より松村代表のご自坊にて新型コロナウイルスの早期終息と罹災者安穩回復を願って法華経読誦と木札のお加持が始まり、その後全国の各教区仏青代議員、連盟役員を含め総勢三十七名のご自坊にて法華経読誦と木札のお加持が行われました。

なかなか終息の見えないウイルスにより、世界各地でも厳しい社会情勢が続いておりますが、この法要を通して少しでも人々の世界平和と安寧に繋がることを願います。

天台宗務庁御特命
三諦章袈裟専織所

山寺庁連
本務用
総延宗御

森忠法衣店

五代目 森 忠兵衛

〒604-0842 京都市中京区押小路通島丸東入
電話 075-231-1203番
FAX 075-255-7020番

COLOR

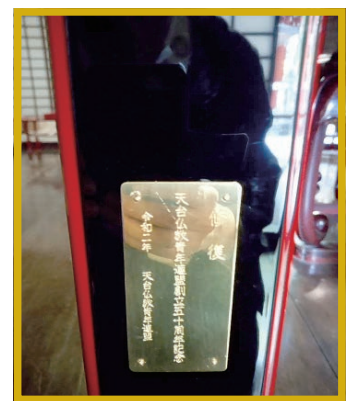
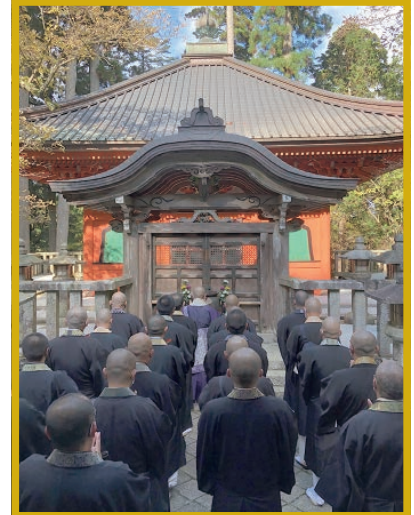
福島カラー印刷株式会社

〒960-2101 福島市さくら3丁目2-7
TEL024-594-2188 FAX024-594-2189 営業所/郡山・東京
<https://f-color.co.jp>

遠藤新兵衛商店

〒600-8334
京都市下京区油小路通六条南入
電話 (075) 351-1367
FAX (075) 351-1476

創立50周年記念事業 浄土院拝殿燈籠修復事業報告



この度、連盟は創立五十周年を迎え、記念事業の一環と致しまして浄土院拝殿燈籠の修復を行わせていただきました。

創立より今日まで、我々青年僧が連盟として活動する事が出来るのは御大師様を始め、歴代の諸大徳が築きあげてきたものがあるからこそ実現できるものと痛感しております。

これより先、何十年、何百年と後世の青年僧が連盟として活動できることを祈念し、報恩謝徳の思いを込めてこの記念事業を進めさせていただきました。

この事業の実現に際し、ご理解とご協力を賜りました各関係者の皆様方におかれましては改めて御礼を申し上げます。

神社・仏閣用授与品・タオル・風呂敷
ふくさ・進物品・お誂え全般 卸

有限会社 ヤマゼン

〒541-0056
大阪市中央区久太郎町3-1-15
ユー・アイビルディング6F
TEL 06-6251-0551 FAX 06-6251-0552

文化財修復・社寺建築

木澤工務店

本社 〒606-8414
京都市左京区浄土寺真如町111番地-1
TEL (075) 751-0628 FAX (075) 752-9430
営業所 〒529-1314
滋賀県愛知郡愛荘町中宿173番地
TEL (0749) 42-2859 FAX (0749) 42-5727

ご寺院様用お仏具
お仏壇・墓石・ギフト

やすらぎの世界を創る

浜屋

■姫路寺院営業部 TEL(079)288-2211代
■本社 / 姫路市南畝町2丁目31番地
TEL(079)288-2211代

通話料無料 イロイロ クー
0120-1616-94
●受付時間/午前10時～午後6時半

天台仏教青年連盟 協賛金協力者御芳名 (敬称略)

皆様の絶大なる御支援に心より御礼申し上げます



天台宗務庁

天台宗宗務総長

阿部 昌宏

総務部長

小林 祖承

法人部長

甘井 亮淳

財務部長

船戸 俊宏

教学部長

岩田 真亮

社会部長

柴田 真成

一隅を照らす運動
総本部長

竹内 純照

延暦寺執行

水尾 寂芳

宗議会議員
(寺籍簿順)

近畿教区 本山寺

百濟 寂仁

兵庫教区 八葉寺

國岡 恵心

岡山教区 千光寺

葉上 観行

四国教区 大通寺

大西 栄光

三岐教区 佛眼院

佐後 映雄

東海教区 常覚院

村上 圓竜

信越教区 光前寺

吉澤 道人

神奈川教区 遍照寺

坂本 圭司

東京教区 寶泉寺

大塚 亮英

東京教区 寶泉寺

濱田 智純

南総教区 観明寺

細野 舜海

埼玉教区 福正寺

大澤 貫秀

群馬教区 常圓寺

綾小路 乘俊

茨城教区 如意輪寺

寺門 俊明

栃木教区 實教院

鈴木 常元

栃木教区 圓林寺

柳澤 最伸

福島教区 永藏寺

中村 周常

陸奥教区 観音寺

鮎貝 宗城

教区宗務所長
(寺籍簿順)

滋賀教区 泉福寺

安藏 玄周

近畿教区 松見寺

兼平 明観

兵庫教区 白毫寺

荒樋 勝善

岡山教区 本性院

永宗 幸信

山陰教区 大日寺

見上 知正

四国教区 長尾寺

木村 俊雅

九州東教区 成佛寺

安部 暁昇

三岐教区 常住寺

森 喜良

東海教区 瀧山寺

山田 亮盛

北陸教区 國分寺

松浪 圓應

神奈川教区 寶塔寺

榎本 昇道

東京教区 寶塔寺

林 観照

北総教区 大乘寺

弘海 高顯

南総教区 能満寺

高橋 隆叡

埼玉教区 福正寺

木本 清玄

群馬教区 長福寺

三浦 祐俊

茨城教区 薬王院

中村 純亮

栃木教区 全水寺

村田 庸田

福島教区 西藏寺

横山 大哲

陸奥教区 満福寺

千葉 亮賢

令和二年度常任委員会 委員長報告



— 担当 —
本山・滋賀・京都・岡山
九州東・東海・信越・群馬

結集研修委員会

委員長(岡山) 松原 照敬

結集研修委員会では、例年結集及び中央研修の取り組み方や議題・問題点等について協議しております。

昨年は新型コロナウイルス感染症という未知なる禍に見舞われ、比叡山延暦寺にて執行される予定であった中央結集が延期となりました。併せて天台仏教青年連盟五十周年を記念する結集でもあつただけに残念でなりません。

しかしながらリモート会議という新様式を取り入れて、今後の結集や五十周年記念事業等様々な議題についても協議を重ねました。その中でも一つ一つの事業の大きさから「イベント保険」が議題に挙がりました。協議時間も少なく結論は出ておりませんが、加入の是非を重要案件と位置付け協議を続けて頂きたいと思えます。

コロナ禍で先行きが見えない中ではありますが、今後予定されている中央結集を含む多くの事業が円滑に執行出来ますよう取り組んでいく所存です。皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。



— 担当 —
九州西・神奈川・南総
埼玉・栃木・福島

救援委員会

委員長(南総) 佐久間 実洗

救援委員会では昨年七月豪雨災害の義援金、支援金のお願いに對し多くのご浄財のご協力を頂き誠に感謝申し上げます

七月豪雨支援といしまして、九州災害対策本部に支援金ならびに支援物資の支援をいたしました。

七月豪雨災害の義援金につきましては、日本赤十字へ、支援金につきましては九州災害対策本部ならびに支援センター「チームうと」に送付いたしました。

支援団体につきましては、昨年同様「防災士協議会・プラテーパー財団・パンニヤメッタ協会・一隅を照らす運動総本部」に決定いたしました。

最後に各教区仏青の皆様にご協力を頂いた浄財による被災地支援に對し感謝申し上げますと共に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大変な時期ではございますが、救援委員会に對しご理解を頂き、今後とも変わらぬご協力を願ひ申し上げます。



— 担当 —
東京・北総・陸奥
山形・北海道

情報通信委員会

委員長(山形) 清原 要田

御法務ご清栄の故、この災禍にあつて御苦勞も多いことかと拝察いたします。

情報通信委員会は、例年は天台仏青連盟行事や各教区仏青様の行事等の活動報告をウェブ媒体にてお知らせする事を主体事業としていましたが、本年度はコロナ災禍があり行事の開催が中止になり閑散とした事態となりました。その中でも連盟主体により全国の代議員様にご協力頂いた新型コロナウイルス早期終息・病氣平癒祈願の様子をお伝えして頂いたことは意義があつたかと存じます。

本来であれば本年開催であつた連盟五十周年事業に於いて情報通信委員会としても事業情報の発信という形で協力する運びでしたが、コロナウイルスへの備えのため本年度に延期された現在はそのれもなかり非常に残念でした。

この災禍が一刻も早く終息に向かい、全仏青会員様や次年度より担当となる委員の皆様が健やかに催される事をご祈念申し上げます。



— 担当 —
近畿・兵庫・山陰・四国
三岐・北陸・茨城

布教広報委員会

委員長(三岐) 久保寺 福美

今年度 布教広報委員会では例年代議員会に併せて開催していた委員会が、コロナウイルスの影響で全国から集まっていた開催が困難となり、リモート形式で開催させていただきました。慣れないスタイルでの運営となりましたが、連盟担当役員の方の諸々の準備、そして夜間のお忙しい中、各自のご予定を調整して参加していただいた委員の方のサポートもあり、無事円滑に活動を進めていく事が出来ました。

またメインである連盟会報誌に關しては、連盟創立五十周年中央結集の延期をはじめ、軒並み行事が中止や延期になった事に伴い、今回は規模を縮小しての発行となりました。

ですが、来年度は延期した中央結集はもとより、連盟創立五十周年を記念した小冊子の発行も控えています。記念誌へ寄稿、お写真の提供等で各教区仏青様には大変お世話になり、誠にありがとうございます。

委員は三月末日をもちまして任期が終わり、新しい代議員の方に変わりますが、これからも当委員会を宜しく申し上げます。

編集後記

この度の連盟会報誌の発刊にあつては新型コロナウイルス感染症拡大の予防に伴い、これまでのように集まっていた会議を開催することが難しく「リモート会議」という例年とは全く違うスタイルでの発刊作業となりました。

コロナによつて社会の在り方が一変しましたが「新しい生活様式」が示すように、これまでとは違う生活が当たり前となり、今後もその生活スタイルが変化してゆくことが考えられます。

また「ソーシャルディスタンス」や「コロナ自粛」によつて人と人との繋がりが遮断された感がありましたが、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどのSNSによつて様々な情報を広く社会に発信、受信することで互いに何処にいようとも繋がる事ができます。

これらを駆使して社会環境の変化を敏感に感じ取り、積極的な情報発信をすることの重要性を感じています。

布教広報副委員長 吉田 靖順

